

経営比較分析表（令和6年度決算）

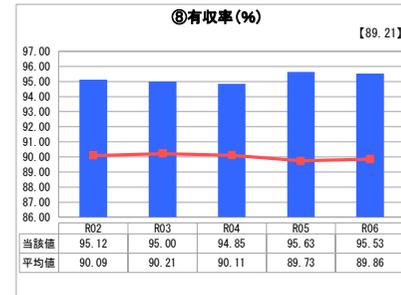
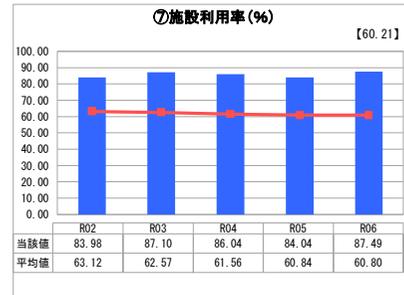
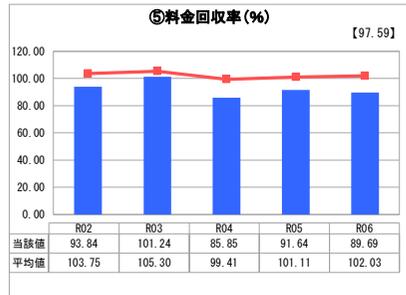
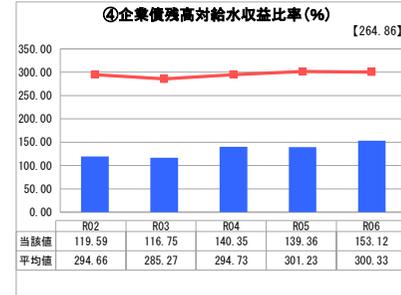
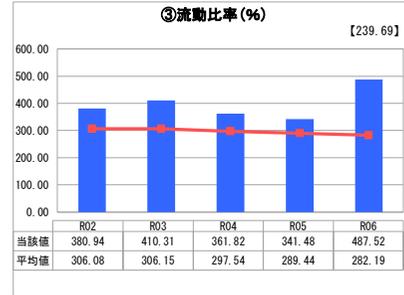
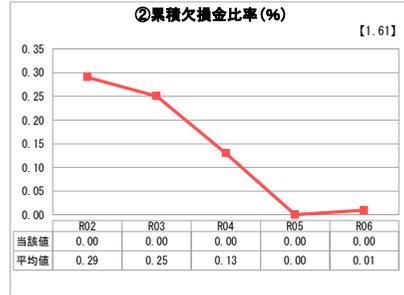
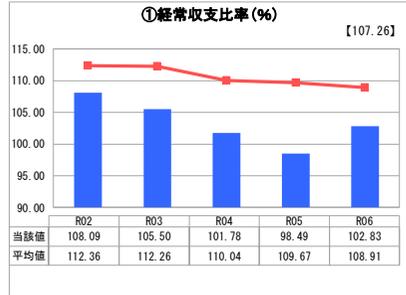
埼玉県 新座市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金 (円)	
-	83.16	99.92	2,145	

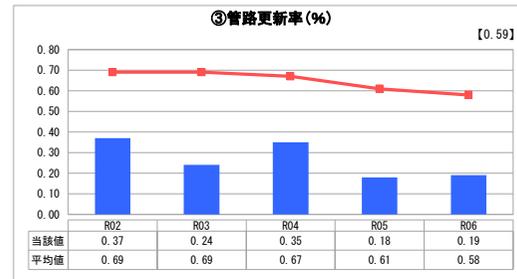
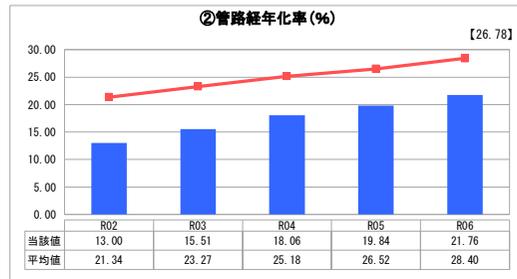
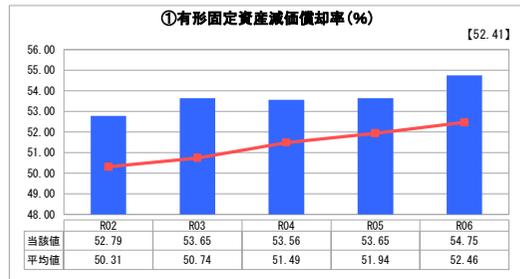
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
166,412	22.78	7,305.18
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
166,252	22.80	7,291.75

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
令和6年度から、資本的収入であった分担金を収益的収入に科目変更したことにより100%を上回ったものの、類似団体と比較すると低い傾向にある。令和8年4月からの料金改定により比率は上昇する見込みだが、将来の更新等に係る財源確保のため、収益性の向上が課題であり、経営の合理化に努めていく必要がある。

②流動比率
短期的な支払能力を示す値で、類似団体を上回っている状態である。

③企業債残高対給水収益比率
類似団体と比較して下回っているが、今後施設の更新を進めていく中で比率が上昇していく可能性がある。

④料金回収率
100%を下回っており、給水費用を給水収益以外の収入で賅っていることを示している。令和8年4月からの料金改定により、改善される見込みである。

⑤給水原価
類似団体と比較して下回っており、今後も設備等の更新による減価償却費の増加や物価高騰の影響により給水原価が上昇すると推測される。

⑥施設利用率
施設の利用状況や規模を判断する指標であり、類似団体と比較すると、施設をより適正規模で運用していることを意味している。

⑦有収率
類似団体よりも高い状態である。これは、漏水などが少なく、施設からの配水量が水道使用量に結びついていることを示している。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②管路経年化率
管路経年化率からは類似団体と比べ老朽化の進行度が遅いように見えるが、有形固定資産減価償却率（数値が高いほど保有資産が法定耐用年数に近づいていることを示す指標）は類似団体を上回っており、今後老朽化が急速に進行することを示している。

③管路更新率
管路の更新ペースや状況を把握できる指標だが、類似団体より低い。令和6年度も、更新コストがかかる基幹管路の更新を行ったため、管路の更新延長が伸びなかった。管路の更新投資を早急かつ計画的に行っていく必要があることを示している。

全体総括

新座市においては、昭和40・50年代に布設した管の老朽化が進み、また、浄水場施設についても同様の状態であることから、今後の更新投資を早急かつ計画的に行っていく必要がある。しかし、人口減少社会の到来や節水器具の普及等により、更新の資金源となる水道料金の増収が見込めない状況である。このため、業務の民間委託等による経営効率化や広域化に向けた検討を進めるとともに、定期的に適正な料金水準の見直しを検討せざるを得ないと考えられる。